

1974年の「アフリカ統一機構（the Organization of African Unity：OAU）難民条約」の施行を記念して定められていた「アフリカ難民の日」を国際的なものにし、難民の保護・支援に対する関心を高め、国際機関やNGOの活動への理解と支援を深める日にするため、2000年に制定されました。

難民とは ※国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）による定義

人種、宗教、国籍、政治的意見または特定の社会集団に属するという理由で、自国内にいると迫害を受けるおそれがあるために他国に逃れ、国際的保護を必要とする人々、国際的・国内的な武力紛争や戦争から他国に逃れてきている人々のことです。また、自国内に留まっている場合は「国内避難民（Internally Displaced People：IDPs）」といいます。

2020年頃から新たな戦争が次々と起きているため、世界の難民の数は2021年：8,930万人
→2024年5月時点で過去最多の1億2,000万人（いずれも約40%が18歳未満）と急増し続けています。

難民が直面する問題

難民の人々は、戦火・迫害などで収入・財産・教育などの生活の全てを手放し、着の身着のまま逃れることを強いられます。そのため、多くの問題に長期間直面し続けることになります。

(一例)

- ・逃れている途中で戦火に巻き込まれたり、迫害者に見つかったり、事故に遭ったりして亡くなる
- ・逃れた先の国で不法入国で投獄されたり、母国へ強制送還させられたりする
- ・逃れた先の国の人々や公的機関から新たな差別や迫害を受ける
- ・難民キャンプに辿り着いても学校も文房具も無いので教育を受けられない
- ・難民キャンプに多くの人が押し寄せ、食糧や水が不足する、衛生施設や医療物資なども不足する
- ・身分証明が無いため、逃れた先の国で収入や住まいを得る手段が無い
- ・逃れた先の国の難民認定審査を待っている間に貧困に陥る
- ・壮絶な精神的負担、トラウマからPTSDなどのメンタルヘルス不調に陥る



国内避難民への食糧・物資支援
(2017年、フィリピン・ミンダナオ島マラウィ市)

上記のように、難民に対する偏見や無知に基づく差別や迫害、中にはSDGsに逆行した差別的な政策・法律も未だ後を絶ちません。確かに非常に複雑で難解な問題ではありますが、「もし自分が難民の立場だったら」と考え、何が重要・必要なのか、問題なのか少しでも知ることが大切です。何より、これ以上難民が増えぬよう、平和な世界に向けた行動・メッセージを示すことが私たち一人ひとりに求められています。

引用

- ・国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日事務所HP
- ・季刊誌『難民』1999年第3号、「世界難民の日」、「数字で見る難民情勢（2022年）（2023年）」
- ・国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）「GlobalTrends」（英語・棒グラフ）

Together, We Can CHANGE the World はじめてみよう！あなたにできること。

もっと国際デー！

関連情報を調べてアクションをおこしてみよう！

FTCJはあなたの好きなこと・特技を活かした国際協力をおすすめしています。あなただからこそできる国際協力を一緒に探しませんか？全国のメンバーが様々なアクションを起こしています。アクションのヒントはコチラで検索！

FTCJ 活動ヒント 検索

©認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン